

日本ESD学会誌『ESD研究』執筆要領

(原稿作成)

1. 原稿を作成する際の使用言語は、日本語または英語とする。
2. 投稿原稿は、文書作成ソフトで作成する。印刷用紙の判型はA4判とし、縦置き横書きで、1頁あたり全角22字×40行×2段(=1,760字)で片面印刷とする。頁番号は下部中央に記載する。英文原稿も同様とする。ただし、印刷製本後の判型はB5版となる。
3. 各投稿原稿の文字数は(改行時の空白や空白行を含む)は、表題・著者名・図表・注釈・参考文献表などをすべて含めて、原則として以下の通りとする。英文原稿もこれに準じるものとする。
 - ①「原著論文」および「総説論文」は、10頁(17,600字)以内とする。
 - ②「研究ノート」「報告」および「資料」は、6頁(10,560字)以内とする。
 - ③「特集論文」など編集委員会からの依頼原稿については、その依頼条件に従うものとする。
 - ④「書評」は、表題・著者名・表紙画像を除いて22字×51行(1,122字)以内とする。
4. 図表の文字数を計算する場合には、①1頁相当は1,760字、②1/2頁相当は880字、③1/4頁相当は440字としてそれぞれ換算する。図版や図表の挿入箇所を本文中に明記する。なお、図表中の文字ポイントは最小で9ポイントまでとする。
5. 原稿冒頭部分(日英の表題・著者名・所属先名)は、13行分を確保すること。したがって、本文の書き出しは14行目からとする。

(論文構成)

6. 「原著論文」「総説論文」「特集論文」「研究ノート」「報告」および「資料」の原稿の冒頭には、表題、著者名および所属先名を日本語と英語で表記する。
7. これらの内、「原著論文」「総説論文」および「研究ノート」の原稿の末尾(「引用文献」一覧の後)には、和文原稿については英文要旨(150語以上、200語以内)および英語キーワード(5語以内、アルファベット順)を付記する。また、同じく英文原稿については、和文要旨(350字以上、500字以内)および日本語キーワード(5語以内、五十音順)を付記する。

8. 原則として、執筆者の母国語ではない言語によって記述した論文等は、その言語を母国語とする専門家の校閲を受けたものとする。

(注釈)

9. 注釈は本文の該当箇所に、1)・2)・3)・・・の肩番号を付し、本文の直後に後注として番号順に記す。
10. 後注の文字サイズは9ポイント、書体は明朝体とする。
11. 注釈は、引用・参照した資料・文献の書誌情報を示すものではなく、本文の内容を補足するものに限定する。

(文字表記)

12. 和文原稿における文体は「である調」とし、文字の表記は「常用漢字」および「現代仮名遣い」を原則とする。
13. 表題の文字サイズは主題を14ポイント、副題、著者名および所属先名の文字サイズはそれぞれ12ポイントとし、書体はいずれもゴシック体とする。
14. 本文(注釈、図表、参考文献を含む)の文字サイズは10.5ポイント、和文原稿の書体は明朝体、英文原稿の書体はCenturyとする。
15. 和文原稿においてアラビア数字を使用する場合、1桁数字は全角文字、2桁以上は半角文字とする。ただし、英文原稿における英数字は、半角文字を使用する。
例)「第3回」「12本」「365日」「4月18日」「午前8時30分」
16. 年号は西暦表記を基本とする。和暦を併記する場合は「2017(平成29)年」のように表記する。ただし、必要に応じて「昭和20年代」などの和暦表記も可とする。
17. 大きな数量を表す数字の表記は、単位語(兆、億、万)を付ける。この場合、桁区切り記号の半角コンマ(,)は付けない。
例)1億2709万人、524兆3972億円
18. 接続詞や副詞などの表記がゆれやすい言葉については、表記をどちらかに統一する。
例)「または／又は」「したがって／従って」「および／

及び「とくに／特に」「けっして／決して」「すべて／
全て」「まったく／全く」

19. 学術用語は文部科学省の学術用語集を参考とする。

20. 外国語の頭文字を組み合わせた略語(頭字語、
acronym)については、初出で日本語の訳語を併記
するか、または「(以下、「○○」という。)」と表記する。
なお、頭字語は原稿段階では全角文字で表記する。

例)「持続可能な開発のための教育(ESD)」

「持続可能な開発目標(以下、「SDGs」という。)」

「国際連合(以下、「UN」という。)」

(句読法)

21. 句点は「マル(。)」, 読点は「テン(、)」を使用する。

22. 章・節・項などの見出しの副題は「コロン(:)」でつ
なげる。

(見出し・見出し番号)

23. 章見出しの上下の行は空白行とする。ただし、節見
出しおよび項見出しの上下には空白行を設けない。

24. 章・節・項などの見出し番号は、次の通り表記する。
なお、見出し番号に続く最初の文字との間は全角1
字分を空白とする。

①「章」: I・II・III・・・(「第○章」とは表記しない。

以下同様。)

②「節」: 1・2・3・・・

③「項」: 1)・2)・3)・・・

25. 本文中で箇条書きを行う際には、①・②・③・・・を使
用することができる。

(図表・図表番号)

26. 図表には、「図1」「図2」、または「表1」「表2」のよう
に通し番号を付記する。

27. 図表番号に続けて、その内容を簡潔に表した図題
および表題を表記する。

(出典表記)

28. 本文中に引用した資料、文献、図表等の出典は、
文中あるいは図表に丸括弧を用いた括弧式で、著者
または編者(以下、「著者等」という)の姓、発行年、
および頁数を表記する。

29. 写真やイラスト等を引用する場合は、必要に応じて、
執筆者自身が撮影者や原作者などの著作権所有者
から使用許可を得て、同様に出版を表記する。なお、
図表や写真等を執筆者本人が独自に作成・撮影した

場合には、「(筆者作成)」または「(筆者撮影)」と表
記する。

30. 引用文献が複数ある場合には、括弧内をセミコロン
(;)で区切って併記する。

31. 著者等が複数名いる文献の場合は、筆頭著者また
は責任著者(corresponding author)を最初に記載
するとともに、次のように表記する。

1) 和文原稿の場合:

① 著者等が3名までのときは、中黒「・」で区切って
全員を連記する。

② 4名以上のときは、筆頭著者、責任著者

(corresponding author)を含め最大3名までを
記載するものとし、その後に「ほか」を付記する。

2) 英文原稿の場合

① 著者等が3名までのときは全員を連記する。なお、
最後の著者等の前は“and”でつなぐ。

② 4名以上のときは、筆頭著者、責任著者

(corresponding author)を含め最大3名までを
記載するものとし、その後に“et al.”または“and
others”を付記する。

32. 同年に出版された同一著者の文献が複数ある場
合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a、
b、c・・・)を付して区別する。

33. 邦訳書から引用する場合、その出版年が原著の
出版年と異なる場合は、原著出版年と邦訳書出版
年を「=」でつなげて表記する。

34. 発行年が明記されていない資料などから引用する
場合は、発行年を「n.d.」と表記する。

(引用文献一覧)

35. 原稿末尾の引用文献一覧の作成にあたっては、
引用した文献や資料等を、著者等の姓および発行年
の昇順で列挙する。ただし、日本語文献と外国語文
献を区分しない。

36. 日本語文献は次のように表記する。

1) 論文:

① 学会誌や紀要等に収録された論文

著者名(発行年)「論文名」『掲載誌名』(発行者
名)巻号、頁付。なお、掲載誌名に類似のもの
が多い場合には、その発行者名を表記し、丸括弧
で囲む。

② 単行本に収録された論文の場合

著者名(発行年)「論文名」編者名編『書名』出
版社または発行所名、頁付。なお、共著論文の

場合には、3名までは連記し、4名以上の場合には筆頭者、責任著者を含め最大3名までの氏名を表記し、そのあとに「ほか」と付記する。

2) 単行本:

① 単著・共著

著者名(発行年)『書名』出版社名

② 単編・共編

編者名(発行年)『書名』出版社名。なお、共著または共編の場合には、4名までは連記し、5名以上の場合には5人目以降の著者は省略し、そのあとに「ほか」と付記する。

③ 全集・双書

著者名(発行年)『書名』編者名『全集(双書)名』出版社名。

37. 外国語文献は次のように表記する。

1) 論文:

① 学会誌や紀要等に収録された論文

著者名(発行年)“論文名”掲載誌名, 巻号, 頁付。

② 単行本に収録された論文の場合

著者名(発行年)“論文名”In 編者名(ed.)書名, 出版地: 出版社, 頁付。

2) 単行本:

① 単著・共著

著者名(発行年)書名, 出版地: 出版社。

② 単編・共編

編者名(ed./eds.)(発行年)書名, 出版地: 出版社。409. ウェブサイトに掲載されている論文や資料等から引用する場合には、著者名、公表年または最新の更新年、その当該情報の表題、URLのあとに、最終閲覧した年月日を表記する

38. 著者等が複数名いる外国語文献では、著者等が3名または4名までの場合、最後の著者とその直前の著(編)者の間は、カンマでなく“and”でつなぐ。著者が5名以上の場合、5人目以降の著者名は省略し、「et al.」と記す。

39. 外国語文献の場合、著者等の姓名は、姓を先にし、カンマ(,)で名を続ける。なお、これら著者等の表記は原則として、原書の大扉の表記に従う(ファーストネームやミドルネームがイニシャル表記の場合は、そのように表記する)。

40. 外国語の文献名や論文名は、最初の単語の第1文字目と固有名詞を除いては、小文字で表記する。

41. 日本語および英語以外の言語を使用する場合は、

執筆者の責任において、適切に表記する。

(本執筆要領の決定および改正)

42. 本執筆要領は、編集委員会が決定する。決定にあたって、編集委員長は評議員会に意見を求めるものとする。本規程の改正に際しても同じ手続きを適用する。